

# CIGS 瀬口清之 講演会

## 『米中摩擦、中国経済、世界秩序：リスクと展望』

本年5月以降、米中貿易摩擦が一段と激化し、関税引き上げによるダメージが両国において表面化してきている。米国では大豆農家が主要輸出先である中国市場を失うことへの不安感を募らせ、中国では経済の先行きを懸念する民間企業が設備投資を抑制している。

中国政府は米国に対し譲歩する姿勢を示しており、来年1月には米国の投資環境改善要求を受け入れる形で外商投資法を施行し、法制化により構造改革を推進する。一方、強硬姿勢一辺倒だった米国トランプ政権も、大統領選挙における重要な支持基盤の農民や米国企業の強い不満表明を受けて、若干ながら軟化の兆しを見せている。

この間、日中関係は、来春の習近平主席訪日を前に、着実に改善の方向に向かいつつあり、経済交流も活発化してきている。米中摩擦が激化する状況下、中国政府の日本企業に対する優遇姿勢が拡大し、日本企業にとって中国国内市場の投資環境は改善している。

以上の足許の情勢から目を転じて中長期のグローバル社会における秩序形成を展望すると、欧米諸国における所得格差拡大を背景とする社会分裂の深刻化、世界秩序形成における米国のリーダーシップの低下、国際組織の機能低下等を背景に、グローバル社会は徐々に不安定化の方向に向かっている。そうした中で、比較的安定を保持している日本がグローバル社会において果たすべき役割について考えたい。

### <開催概要>

- 日 時： 2019年11月22日（金）14:00 - 16:00 （13:30 受付開始）  
会 場： 一橋大学 学術総合センター2階 一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）  
主 催： キヤノングローバル戦略研究所

### <講演者プロフィール>

瀬口清之 キヤノングローバル戦略研究所研究主幹／アジアブリッジ（株）代表取締役  
1982年日本銀行入行。91年4月在中国日本国大使館経済部書記官。04年9月米国ランド研究所にて International Visiting Fellow。06年3月北京事務所長。09年3月日本銀行退職、同年4月現職、杉並師範館塾長補佐（11年3月閉塾）。10年11月アジアブリッジ（株）を設立。19年10月日本アジア共同体文化協力機構理事。

### <プログラム>

- |             |      |                            |
|-------------|------|----------------------------|
| 14:00-14:10 | 開会挨拶 | 福井 俊彦（キヤノングローバル戦略研究所 理事長）  |
| 14:10-15:30 | 講演   | 瀬口 清之（キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹） |
| 15:30-16:00 | 質疑応答 |                            |